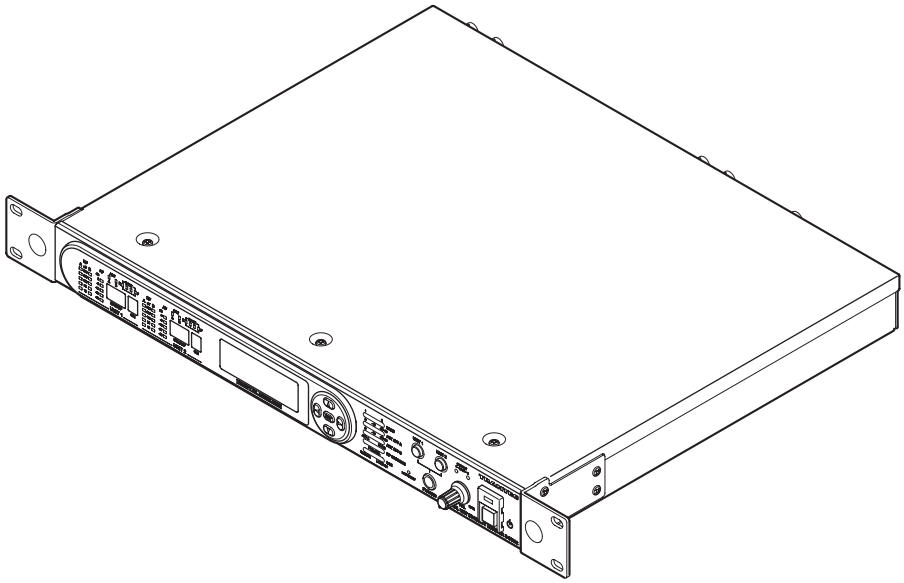
TRANTEC S-D7802-JA13-J
デジタルワイヤレスチューナー

取扱説明書



TRANTEC

目　次

3-5.　安全上のご注意
5.　はじめに
5.　概要
5-6.　特長
6.　使用上のご注意
7.　設置・接続の手順
8-13.　各部の名称とはたらき
14.　設定および確認のしかた
14.　受信機の設定操作について
14.　設定画面のメニューの一覧
15.　各設定項目の設定と確認のしかた
16.　受信周波数設定のしかた
17.　ID設定のしかた
18.　アンテナの設置
18.　アンテナ設置のポイント
19.　アンテナ設置上のご注意
20.　接続例
20.　1台の受信機を使用する場合
21.　2台の受信機でアンテナを共有する場合
22.　3台以上の受信機でアンテナを共有する場合
23.　異なるバンド設定の受信機3台以上でアンテナを共有する場合の接続例
24.　アンテナの前面取り付けについて
25.　ヘッドホンモニターの使いかた
26.　混信があるときの対処のしかた
26.　対策の手順
27.　ID解除による受信電波の確認
28.　チャンネルスキャンによる未使用チャンネルの検索
29.　アンテナアッテネーターによる混信妨害の軽減
30.　デジタルオーディオ出力について
30.　デジタルオーディオ出力のワードクロック設定について
31.　ワードクロック入力の終端インピーダンス設定について
32.　ネットワーク機能について
32.　機能概要
33.　リモート・ローカルモードの設定について
33.　パケットオーディオ信号の出力ユニット設定について

34. IPアドレスの確認
34. MACアドレスの確認
34. 受信機の名前の確認
35. 便利な使いかた
35. デジタルワイヤレスマイクの送信情報確認について
35-36. 受信設定情報の保存と呼び出しについて
36. ユニットの名前設定について
37. ラックへの取り付けかた
38-39. 故障かな？と思ったら
40. 仕様
41. 付属品
41. 別売品
42-44. チャンネル配置表

安全上のご注意

- ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保存してください。

表示について

ここでは、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告 誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

水にぬらさない

本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

指定外の電源電圧で使用しない

表示された電源電圧を超えた電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたりしないでください。
また、コードの上に重いものをのせないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

⚠ 警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

万一、異常が起きたら

次の場合、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）
- 音が出ないとき

電源プラグを抜け

内部を開けない、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。

禁　止

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

禁　止

雷が鳴ったらさわらない

雷が鳴り出したら、電源プラグやアンテナ線にはさわらないでください。
感電の原因となります。

接触禁止

⚠ 注意

誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

禁　止

電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

禁　止

移動させるときは電源プラグを抜く

差し込んだまま移動させるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜け

湿気やほこりの多い場所などに置かない

湿気やほこりの多い場所、直射日光のあたる場所や熱器具の近く、油煙や湯気のあたるような場所に置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

禁　止

工事は販売店に相談する

アンテナ工事は、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
適切な工事を行わないと、アンテナが倒れたり、落下したりして、感電・けがの原因となることがあります。

強　制

⚠ 注意　誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

上に重いものを置かない

本機のバランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

電源プラグやコンセント部の掃除をする

電源プラグを差してあるコンセント部にほこりがたまると、火災の原因となることがあります。定期的にコンセント部の掃除をしてください。また、電源プラグは根元まで差し込んでください。

強　制

お手入れの際、長期間使用しない場合の注意

お手入れのときや長期間本機をご使用にならないときは、安全のため電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。守らないと、感電・火災の原因となることがあります。

電源プラグを抜け

はじめに

このたびは、TRANTECデジタルワイヤレスチューナーをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

概要

800 MHz帯A型（A1型・A3型）シンセサイザー方式のデジタルワイヤレスマイクに対応するPLLシンセサイザー方式デジタルダイバシティワイヤレスチューナーです。

特長

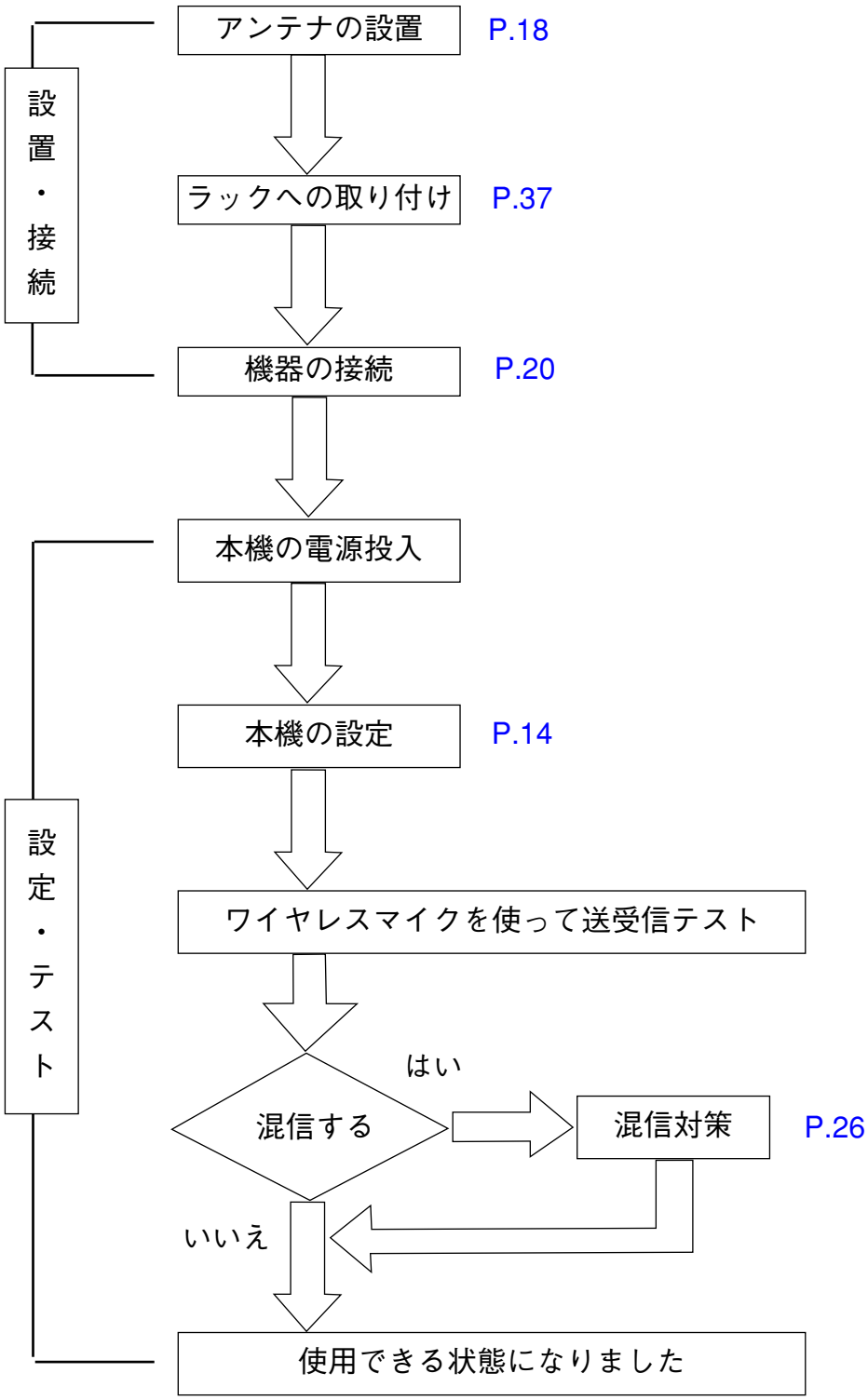
- デジタルオーディオ伝送に対応したデュアルユニットのワイヤレスチューナーです。
- AES/EBUフォーマットのデジタルオーディオインターフェイスに対応しています。
- デジタル受信処理によって、デジタル無線伝送方式のS-D7000シリーズのデジタルワイヤレスマイクの受信再生を行います。
- 24bitの高音質デジタルオーディオ信号処理を採用していますので、アナログ方式のようなコンパンダによる音質劣化がありません。

- デジタル受信処理によって、伝送情報の秘匿性を保つことができます。
- 多くの混信妨害軽減機能を備えていますので、混信やノイズに対して強く、デジタル方式のダイバシティ受信により安定した電波受信が可能です。
- データ伝送によりマイクロホンの設定情報や電池残量を受信監視することができます。
- LAN機能を搭載し、パソコンとの接続によって遠隔操作・モニタリングを行うことができます。
- 本機はA1型（FPU-1ch帯：770.250～778.875MHz）70波、A3型（FPU-3ch帯：788.000～796.875MHz）72波の合計142波の周波数が設定可能なPLLシンセサイザー方式を採用しています。
- 前面パネルのバンド、グループ番号およびチャンネル番号の設定ボタンを操作することで、00～08、または10～16グループでA1型70波、A3型72波の受信ができます。
- 専用分配器を使用することにより、A1型、A3型合わせて最大48波のワイヤレスマイクが同時にご使用いただけます。

使用上のご注意

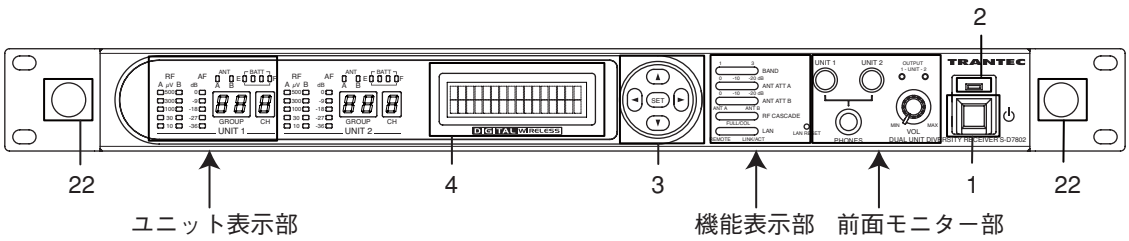
- 付属の電源コードは、本機専用品です。本機以外の機器には使用しないでください。
- 本機を、蛍光灯、デジタル機器、パソコンなど高周波雑音を発生する機器からできるだけ離して設置してください。
- 本機を清掃するときには、必ず電源を切ってから、乾いた布でふいてください。また、ひどい汚れは中性洗剤をしみこませた布を使用してください。ベンジン・シンナー・アルコール類・化学ぞうきんなどは絶対に使用しないでください。変形や変色の原因になります。
  ※アンテナ設置上のご注意については、P.19をお読みください。
- A型（A1型・A3型）デジタルワイヤレスシステムのご使用に際しては、無線局免許取得と運用調整が義務付けられています。詳しくはS-D7000シリーズのデジタルワイヤレスマイクの取扱説明書をご覧ください。

設置・接続の手順


設置・接続
アンテナの設置
P.18
ラックへの取り付け
P.37
機器の接続
P.20
設定・テスト
本機の電源投入
本機の設定
P.14
ワイヤレスマイクを使って送受信テスト
はい
混信する
混信対策
P.26
いいえ
使用できる状態になりました

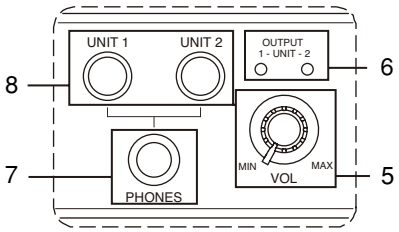
各部の名称とはたらき

前面



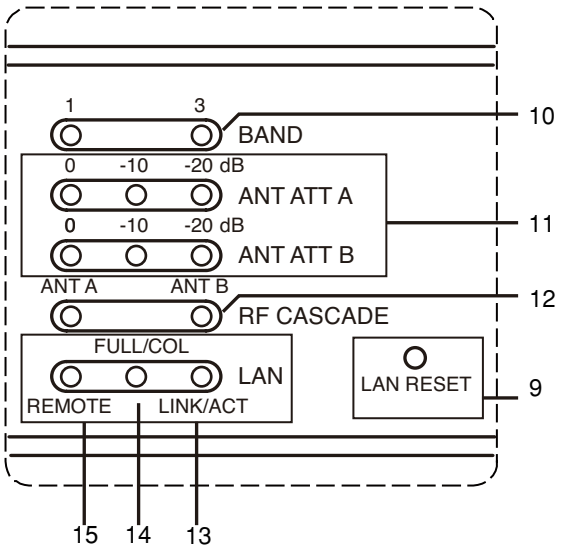
1. **電源スイッチ**
   押すと電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。
2. **電源表示灯**
   電源が入ると点灯します。
3. **操作ボタン**
   上下左右ボタン、およびSETボタンで構成されます。操作メニュー表示部の表示を切り換え、受信機の各種設定項目を変更します。
   → 詳細はP.14「設定および確認のしかた」を参照)
4. **操作メニュー表示部**
   操作ボタンの操作に応じて結果が表示されます。
   → 詳細はP.14「設定および確認のしかた」を参照)

前面モニター部



5. **ヘッドホンの音量調整つまみ**
   ヘッドホン出力の音量を調整します。
6. **音声出力表示灯**
   受信した音声の出力レベルが一定値（−36dBFs）以上あれば点灯します。
   (＊0dBFsはフルスケール出力です)
7. **ヘッドホン出力端子**
   フォーンジャック
   → 詳細はP.25「ヘッドホンモニターの使いかた」参照
8. **ヘッドホン出力のユニット選択ボタン**
   → 詳細はP.25「ヘッドホンモニターの使いかた」を参照

機能表示部



9. ネットワークのリセットスイッチ

→ 詳細はP.32「ネットワーク機能について」を参照

長押しするとメンテナンスモードへ移行します。（もう一度押せば通常状態に戻ります。）

10. バンド表示部

受信するバンド（A1型・A3型）を表示します。

11. アンテナアッテネーター表示部

各アンテナ入力部のアッテネーターの設定状態を表示します。

（3段階、0、−10、−20dB）

12. RFカスケード表示部

アンテナカスケード出力が、後段の分配器またはチューナーのアンテナ入力に接続されているときに、点灯します。

→ 詳細はP.21「2台の受信機でアンテナを共有する場合」を参照

ご注意

アンテナカスケード出力が機能する機器は、WD-7800、S-D7802、S5.5-RX、WT-1822、WT-1824、WD-1810です。

13. ネットワーク接続表示灯：LINK/ACT

ネットワーク接続中：点灯

データの送受信中：点滅

14. ネットワーク通信表示灯：FULL/COL

ネットワークが全二重通信中：黄色が点灯

データ衝突（コリジョン）発生時：黄色の点滅

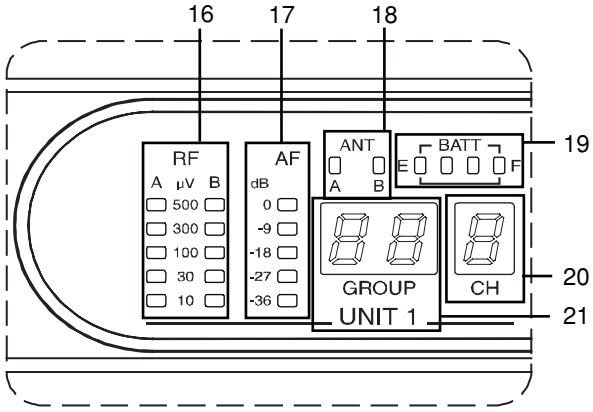
15. リモート表示灯

受信機がリモート操作モードのときに点灯します。

パソコンの専用ソフトウェアからネットワークを通じて機器確認機能を使用したときに点滅します。

→ 詳細はP.33「リモート・ローカルモードの設定について」を参照

ユニット表示部



16. 電波受信レベルメーター

各アンテナが受信した電波強度に応じて点灯します。

17. 音声出力レベルメーター

受信した音声の出力レベルに応じて点灯します。

18. 受信表示灯

ダイバシティにより選択されたアンテナ側が点灯します。

19. 電池残量メーター

表示	残り時間	表示	残り時間
BATT E F	4～5.5時間	BATT E F	15分～1時間 （要電池交換）
BATT E F	2.5～4時間	BATT E F 点滅	0～15分 （動作終了警告）
BATT E F	1～2.5時間		

マイクの電池残量の目安を表示します。

20. チャンネル表示部

受信するチャンネル番号を表示します。

※グループ表示部とチャンネル表示部は、ID解除のときに右下のドットが点滅します。チャンネルスキャン時には「CH.S.」という文字が表示されます。パソコンの専用ソフトからネットワークを通じて遠隔制御される機能においては、それ以外の文字の表示や全体が点滅する場合があります。詳細は付属のCD-ROM内のデジタルワイヤレスシステムS-D7000設定ソフトウェア取扱説明書を参照ください。

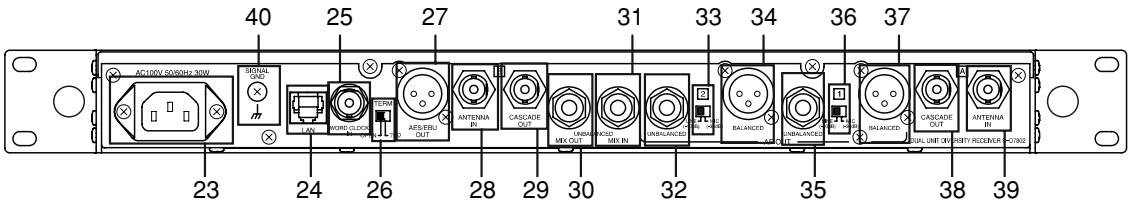
21. グループ表示部

受信するグループ番号を表示します。

22. BNCプラグ付きフロントマウントコード取付け口

→ 詳細はP.24「アンテナの前面取り付けについて」参照

後面



23. ACインレット

AC100～240 V、50/60 Hz。

付属の電源コード（2 m）を接続します。

24. LANケーブル端子

RJ-45ソケット10BASE-Tまたは100BASE-Tに対応したネットワークケーブルでパソコンと接続します。

→ 詳細はP.32「ネットワーク機能について」を参照

25. ワードクロック入力端子

BNCジャック 75Ω

AES/EBU出力端子から出力されるデジタルオーディオ信号の外部ワードクロックを接続します。

26. 終端切換スイッチ

外部ワードクロックの終端処理の切換スイッチです。OPEN／75Ωの切り換えができます。

27. AES/EBU出力端子

XLR-3-32相当品コネクター(1番ピン：アース、2番ピン：信号、3番ピン：信号)

AES/EBUフォーマットのデジタル出力端子です。AES/EBU入力を持つ機器へデジタルオーディオ信号を出力します。

ご注意

接続には、XLR-3-11C相当品のコネクターを使用します。特性インピーダンス110Ωのデジタルオーディオケーブルをご使用ください。

28. Bアンテナ入力コネクター

BNCジャック

ワイヤレスアンテナを接続します。

アンテナにDC電源を供給します。（DC9 V、最大90 mA）

ご注意

アンテナを接続しないコネクターに終端抵抗を接続しないでください。アンテナに供給する電源がショートします。

29. Bアンテナカスケード出力コネクター

BNCジャック

2台目のダイバシティワイヤレスチューナーS-D7802のBアンテナ入力コネクターに接続します。

メ　モ

アンテナを接続しないコネクターに終端抵抗を接続する必要はありません。

→詳細はP.21「2台の受信機でアンテナを共有する場合」を参照

30. ミキシング出力端子

フォーンジャック　－10dB*、不平衡、基準出力時

接続機器のライン（予備）入力端子に接続します。

ユニット1、2とミキシング入力の信号がミキシングされて出力されます。

前面パネルのヘッドホンモニター選択ボタンと連動します。

31. ミキシング入力端子

フォーンジャック　－10dB*、不平衡、基準出力時

ミキシング入力とユニット1、2の信号がミキシングされてミキシング出力端子に出力されます。

32. ユニット2　音声出力端子（不平衡）

フォーンジャック

ユニット2の不平衡単独音声出力です。

接続機器のマイク入力端子またはライン入力端子に接続します。

33. ユニット2　出力レベル切換スイッチ

ユニット2の出力レベルを切り換えます。

「マイク」側：－30dB*

「ライン」側：－10dB*　　基準出力時

34. ユニット2　音声出力端子（平衡）

ユニット2の平衡単独音声出力です。

XLR-3-32相当品コネクターです。

電子バランス型の出力端子です。(1番ピン：アース、2番ピン：ホット、3番ピン：コールド)

接続機器のマイク入力端子またはライン入力端子に接続します。(接続には、XLR-3-11C相当品のコネクターを使用します。)

35. ユニット1　音声出力端子（不平衡）

フォーンジャック

ユニット1の不平衡単独音声出力です。

接続機器のマイク入力端子またはライン入力端子に接続します。

36. ユニット1　出力レベル切換スイッチ

ユニット1の出力レベルを切り換えます。

「マイク」側：－30dB*

「ライン」側：－10dB*　　基準出力時

37. ユニット1　音声出力端子（平衡）

ユニット1の平衡単独音声出力です。

XLR-3-32相当品コネクターです。

電子バランス型の出力端子です。(1番ピン：アース、2番ピン：ホット、3番ピン：コールド)

接続機器のマイク入力端子またはライン入力端子に接続します。(接続には、XLR-3-11C相当品のコネクターを使用します。)

38. Aアンテナカスケード出力コネクター

BNCジャック

2台目のダイバシティワイヤレスチューナーS-D7802のAアンテナ入力コネクターに接続します。

メ　モ

アンテナを接続しないコネクターに終端抵抗を接続する必要はありません。

→詳細はP.21「2台の受信機でアンテナを共有する場合」を参照

39. Aアンテナ入力コネクター

BNCジャック

ワイヤレスアンテナを接続します。

アンテナにDC電源を供給します。（DC9 V、最大90 mA）

ご注意

アンテナを接続しないコネクターに終端抵抗を接続しないでください。アンテナに供給する電源がショートします。

40. 機能アース端子

本機を安定してお使いいただくために、本端子を接地してお使いください。

※安全アースではありません。

＊：0dB=0.775Vrms

設定および確認のしかた

●受信機の設定操作について

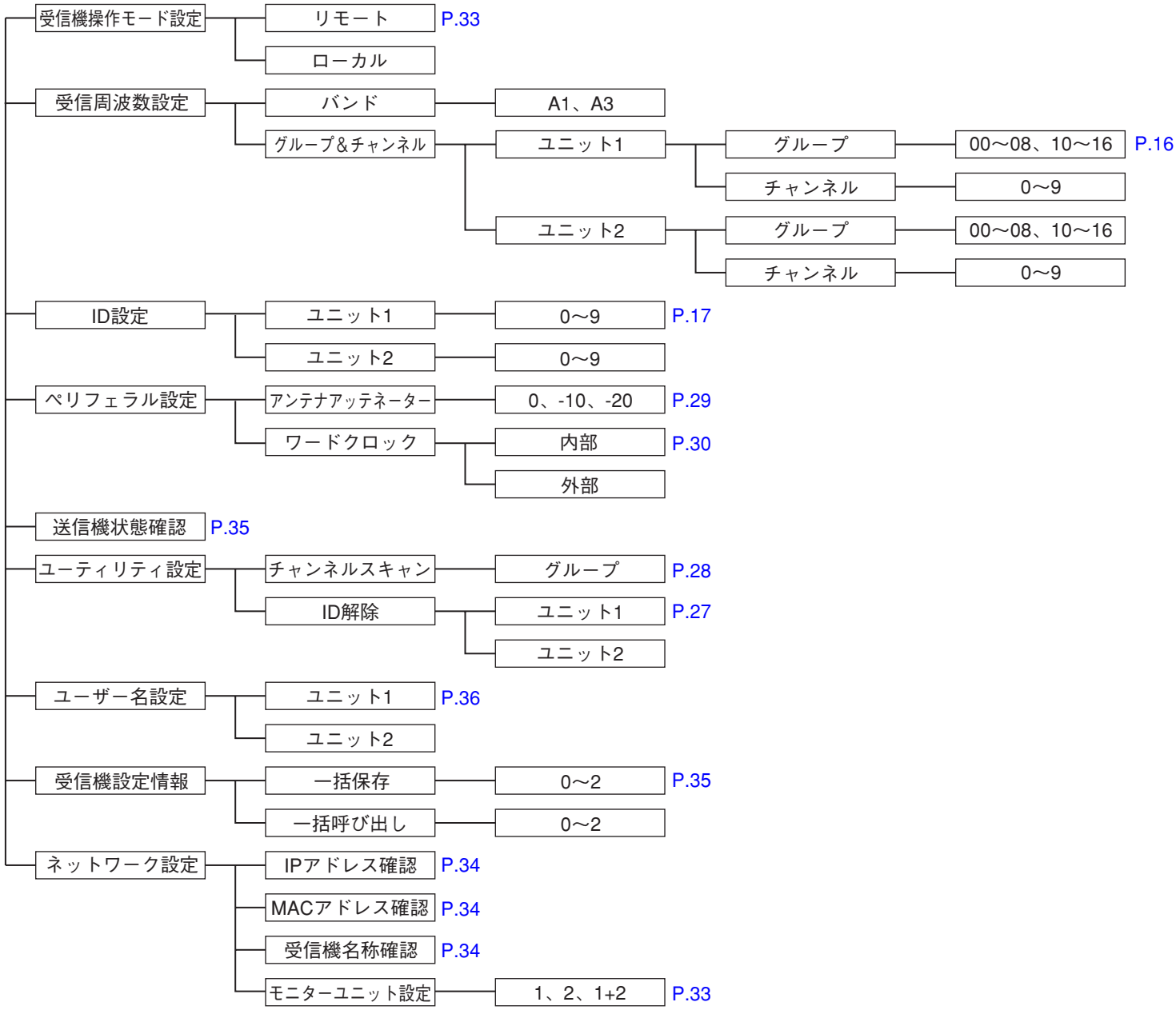
受信機の設定操作には、ローカルモードとリモートモードの2種類があります。

ローカルモード：受信機のメニュー表示部と操作ボタンで各種の設定や確認を行います。

リモートモード：受信機にネットワークで接続されたパソコン上の専用ソフトで各種の設定や確認を行います。

ここではローカルモードについて説明します。リモートモードについては、付属のCD-ROM内のデジタルワイヤレスシステムS-D7000設定ソフトウェア取扱説明書をご覧ください。

●設定画面のメニューの一覧



●各設定項目の設定と確認のしかた

電源投入後の操作メニュー表示部のLCD画面

U	1	:	7	7	0	.	2	5	0	M	H	z		▶
U	2	:	7	7	0	.	2	5	0	M	H	z		

前面パネルのリモート表示灯が消灯していることを確認します。
点灯している場合は、以下の手順で操作モードをローカルに変更します。

受信機操作モードの設定
操作ボタンの右ボタンを押すと設定のメニューがあらわれます。
操作ボタンの上または下ボタンを押して、1 RX CONTROLを表示させます。

T	O	P		M	E	N	U							
1		R	X		C	O	N	T	R	O	L			▲▼

操作ボタンの右ボタンを押して、SELECT RX CTRLを表示させます。
操作ボタンの上または下ボタンを押して、LOCALを表示させます。

◀		S	E	L	E	C	T		R	X		C	T	R	L
			[		L	O	C	A	L		]				▲▼

操作ボタンのSETボタンを押して、LOCALを確定させます。
＊が表示され、ローカルモードが確定します。前面パネルのリモート表示灯が消灯します。

◀		S	E	L	E	C	T		R	X		C	T	R	L
			[	＊	L	O	C	A	L		]				▲▼

詳しくはP.33「リモート・ローカルモードの設定について」を参照

他のメニューも同様の操作をすることで、設定や確認をすることができます。

●受信周波数の設定のしかた

バンドの設定のしかた

メニューで、2 FREQUENCYモードに移り、さらに右ボタンでFREQUENCY MENUに移行します。上下ボタンで1 BANDモードを選び右ボタンで設定画面に移り、設定したいバンドを上下ボタンで選びます。SETボタンを押し、確定(＊)の状態にすると、新しいバンドの状態が設定されます。

◀		S	E	L	E	C	T		B	A	N	D		
			[	＊	A	1	]							▲▼

グループとチャンネルの設定のしかた

メニューで、2 FREQUENCYモードに移り、さらに右ボタンでFREQUENCY MENUに移行します。上下ボタンで2 GRP&CHANNELを選び右ボタンで設定画面に移り、設定したいユニット1または2を上下ボタンで選びます。選択したユニットにおいて、上下左右ボタンを操作して、グループ番号とチャンネル番号を選択し、それぞれSETボタンを押し、確定(＊)の状態にすると、新しい受信周波数が設定されます。グループ、チャンネル番号にあわせて、受信周波数も表示されますので、確認ください。

◀	<	U	1	>		＊	G	0	0		＊	C	h	0	
U	1	:	7	7	0	.	2	5	0	M	H	z			▲▼

●ID設定のしかた

IDとは

デジタルワイヤレスシステムS-D7000では、通信を行うデジタルワイヤレスマイクとデジタルワイヤレスチューナーの間であらかじめIDを決めておき、デジタルワイヤレスマイクから受信するデジタル信号の中にチューナーと同じIDが含まれていれば、デジタル受信処理を行い、音声を出力するようにしています。もし、隣接する妨害源となる信号を受信しても、IDが一致しなければ、デジタル受信処理は行わず、音声も出力しないようにします。S-D7000のデジタルワイヤレスマイク、およびデジタルワイヤレスチューナーでは、「0」～「9」までの10種類のIDを搭載しており、状況に応じて切り換えが可能です。また、IDを使い分けることで、情報の秘匿性にも有効です。

設定操作のしかた

メニューで、3 IDモードに移り、さらに右ボタンでID MENUに移行し、上下左右ボタンを操作して、設定したいユニット1または2のID番号を選択します。それぞれSETボタンを押し、確定(＊)の状態にすると、新しいIDが設定されます。

◀			U	1				U	2					
	[	＊	I	D	4	]		＊	I	D	0			▲▼

ご注意

妨害電波が非常に強い場合には、正しく使用できないことがあります。

アンテナの設置

●アンテナ設置のポイント

ポイント1

ワイヤレスマイクを使う位置から見て、2本のアンテナがどちらも20～30m以内（屋外のときは、少なくとも40～50m以内）に直視できる所に取り付けます。（どちらかのアンテナがデッドポイントに入ったとき、もう片方のアンテナが良好に受信できる状態を確保するためです。つまり、部屋の形に関係なく、これさえ守ればよいということです。コンパスで2本のアンテナそれぞれを中心に半径20～30 mの円を描き、どちらの円にも含まれている場所ならば、大丈夫です。）

ポイント2

部屋の構造や大きさなどによりますが、ダイバシティの効果を得るために2本のアンテナは3m以上離して設置してください。5～20m離して取り付けると、ダイバシティ効果が大きくなります。できればワイヤレスマイクを持った位置から、前方に1本と後方に1本取り付けるのが効果的です。

ポイント3

アンテナは、人の背よりできるだけ高い所に取り付けます。ただし、天井や壁などの内側には取り付けないでください。また、何かに当てられて壊されない位置を選んでください。

ポイント4

展示場や宴会場または舞台と客席の間に仕切り板がある場合、あるいはポイント1で述べたカバー範囲にワイヤレスマイクを使う位置が入らない広い場所のときは、アンテナを増設してください。

ご注意

S-D7802のアンテナ入力はA系統、B系統それぞれ1入力です。
複数のアンテナを使用する場合は、アンテナ混合器をご使用ください。

ポイント5

多チャンネル運用時には、使用するすべてのワイヤレスマイクロホンと各受信アンテナの距離を5m～10m程度の距離に保てるように設置するとより効果的です。

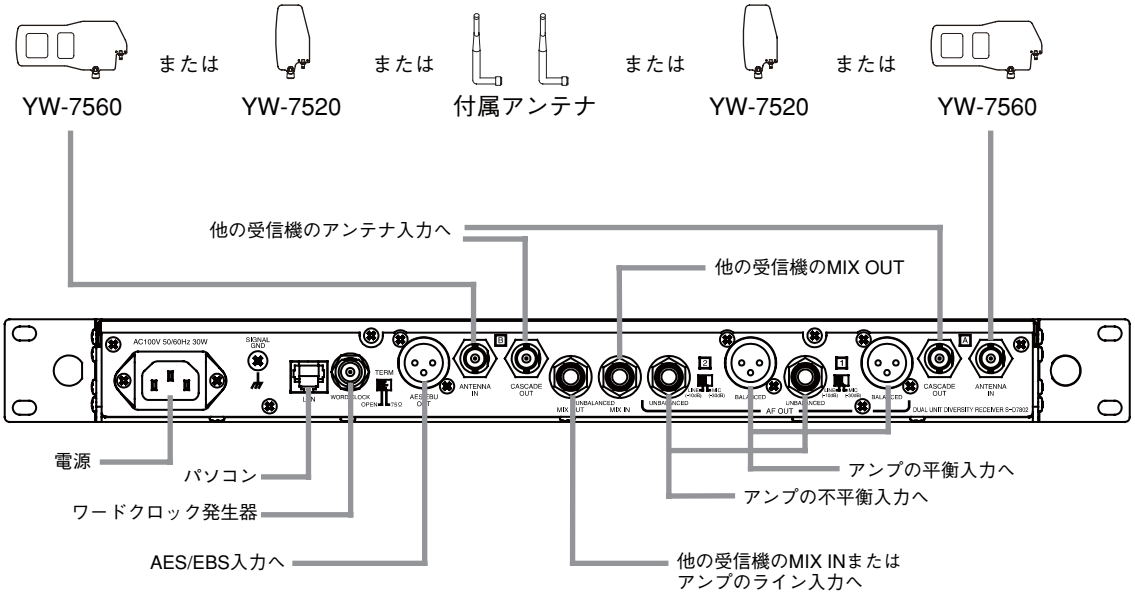
●アンテナ設置上のご注意

- アンテナから半径50 m以内（見通しのよい屋外の場合100 m以内）がワイヤレスマイクの使用可能な範囲とします。
- ワイヤレスマイクの使用範囲から見通せる位置に、正位置に設置してください。
- ワイヤレスマイクとアンテナを近づけ過ぎると、誤動作や雑音を発生する恐れがあります。ワイヤレスマイクと受信アンテナの距離は、3 m以上*離してください。
  ＊アッテネーターの設定やアンテナの設置場所などの条件により異なります。
- アンテナとアンテナの間隔は5～20 m離してください。
- 鉄骨やロッカーなどの金属物の近くを避け、壁面から30 cm以上離して設置してください。
- 必ず2本以上、偶数本で使用してください。また、2本以上接続する場合はA系統とB系統の交互に設置してください。
- 室内であれば、外部からの電波を受けやすい窓の近くよりも、電波を通しにくい壁側に設置してください。
- 雑音電波を発生する恐れのある機器の近くに、アンテナやケーブルを近づけないでください。
  例：インバーター応用機器（蛍光灯、エアコンなど）、デジタル機器、
  パソコンなどのコンピューター機器
- アンテナとワイヤレスチューナーは、接続する同軸ケーブルが短くなるような位置に設置してください。
- アンテナ線には低損失型の50Ωまたは75Ωの同軸ケーブルをご使用ください。50Ωの同軸ケーブルとして5D-FBまたは8D-FB、75Ωの同軸ケーブルとして5C-FBまたは7C-FBをご使用ください。
- アンテナケーブルが長くなる場合は、アンテナブースターを使用してください。アンテナブースターについては営業所にお問い合わせください。
- アンテナや受信機のアンテナコネクターを短絡させないでください。電源がショートして、故障の原因となります。

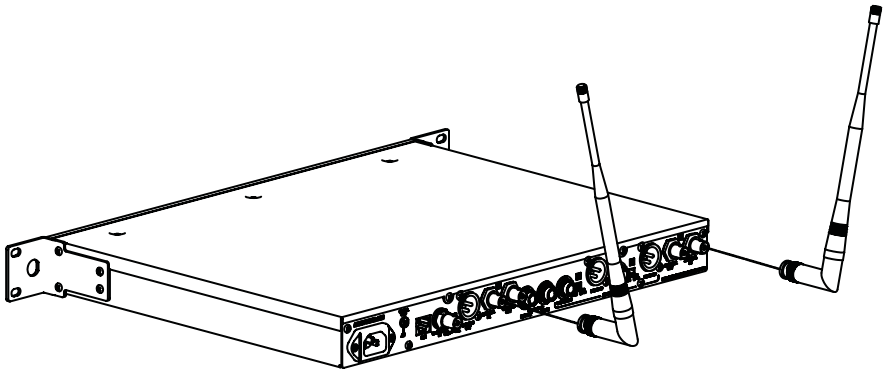
接続例

●1台の受信機を使用する場合

アンテナは付属アンテナ、またはYW-7520,7560をご使用ください。
アンテナは、必ずA、Bアンテナ入力コネクターに1本ずつ接続してください。



付属アンテナの取り付け

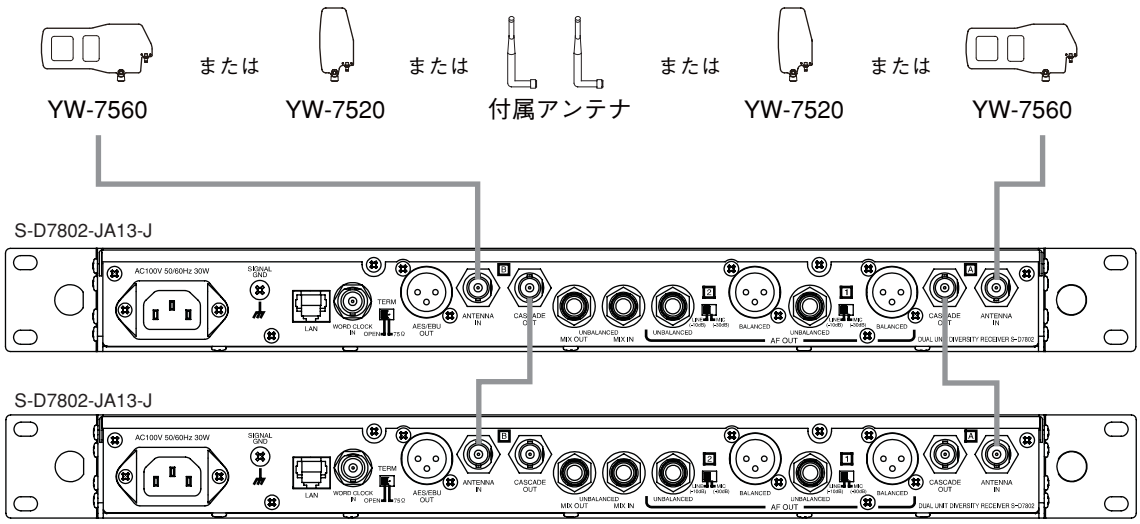


●2台の受信機でアンテナを共有する場合

1台の受信機にアンテナを接続し、その受信機のアンテナカスケード出力端子をもう一台の受信機のアンテナ入力端子に接続します。（付属のBNCプラグ付きコード（50cm）を使用します）
アンテナ共有時にはアンテナカスケード出力端子を接続した側の受信機のRFカスケード表示部が点灯します。
使用マイクロホンが4本までで、使用エリアが比較的小さめの用途でのシステムアップに便利です。

(背面)
アンテナは付属アンテナ、またはYW-7520,7560をご使用ください。
アンテナは、必ずA、Bアンテナ入力コネクターに1本ずつ接続してください。

ご注意
アンテナカスケード出力には、出力減衰がありますので、接続段数は1段までです。
カスケード接続された受信機からさらにアンテナカスケード出力を用いて、カスケード接続を行いますと、受信感度低下に繋がりますので、ご注意ください。



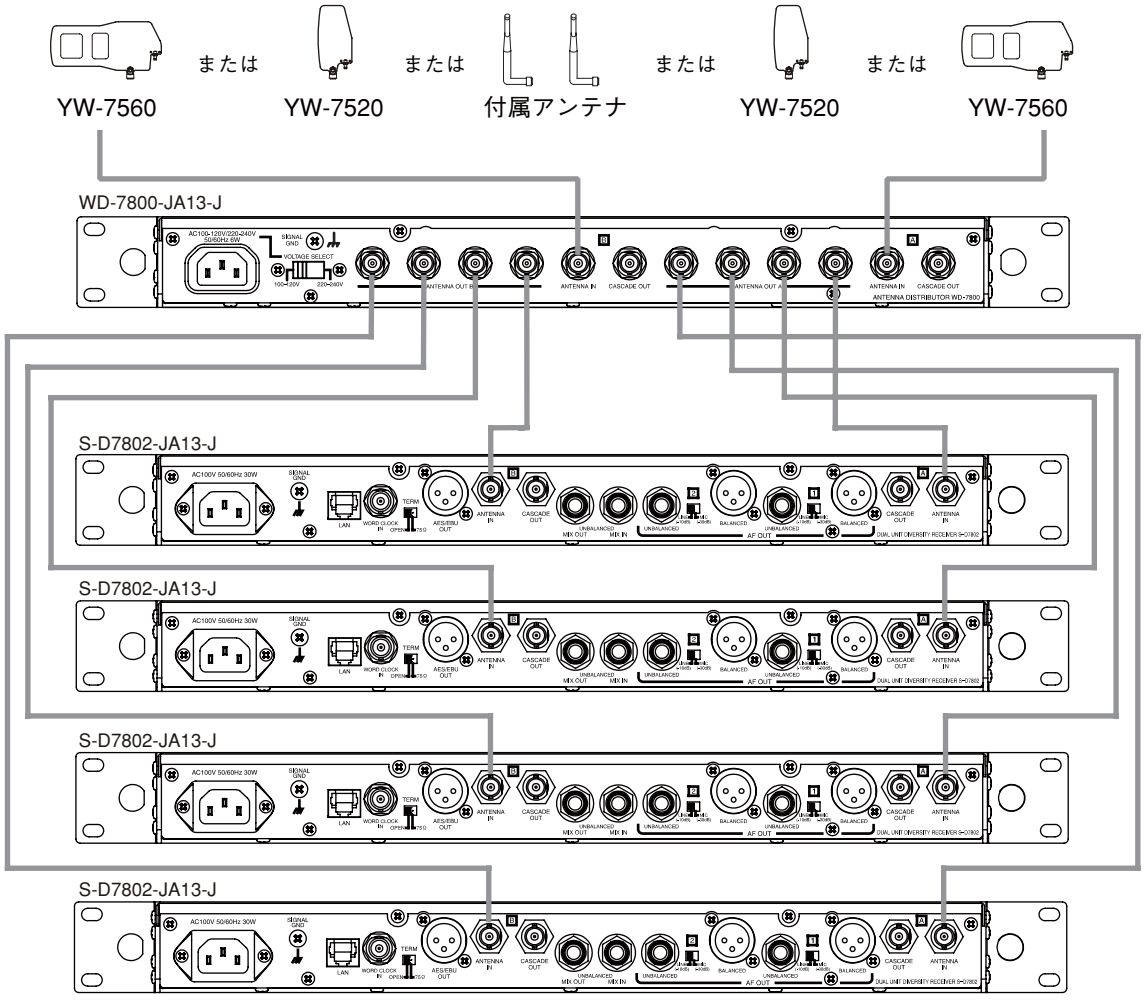
カスケード接続する2台の受信機は互いに異なるバンドに設定して使用することができます。
S-D7802-JA13-JとS-D7802-JB-Jをカスケード接続することもできます。その場合、アンテナはS-D7802付属アンテナまたは、YW-7520,7560をご使用ください。

●3台以上の受信機でアンテナを共有する場合

別売の分配器を利用します。
分配器の各アンテナ出力端子と各受信機のアンテナ入力端子を接続します。
分配器の各アンテナ入力端子にアンテナを接続します。

（背面）

アンテナは付属アンテナ、またはYW-7520,7560をご使用ください。
アンテナは、必ずA、Bアンテナ入力コネクターに1本ずつ接続してください。



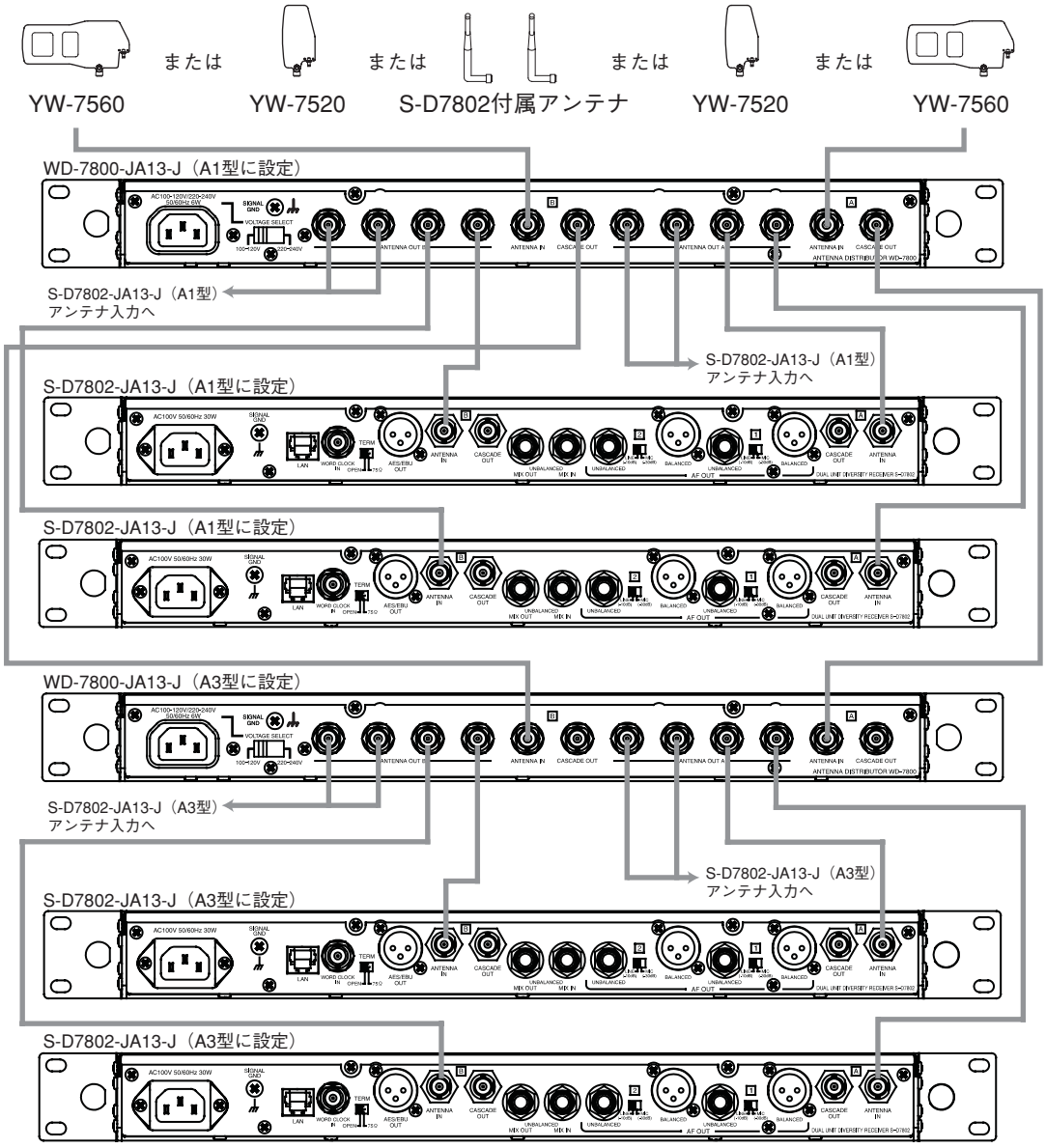
適応機器　分配器：WD-7800-JA13-J
分配器にはBNCプラグ付きコード（50cm）が4本付属されています。不足する場合は、別売のYW-P5BB（BNC 0.5 mコード　2本入り）を使用してください。

ご注意

分配器のアンテナ分配出力端子に接続する受信機はすべて、分配器と同じバンド設定にする必要があります。

●異なるバンド設定の受信機3台以上でアンテナを共有する場合の接続例

分配器WD-7800-JA13-Jのカスケード機能を利用することで、異なるバンド設定（A1型、A3型）の受信機3台以上でアンテナを共有することができます。
2台の分配器をカスケード接続し、互いに異なるバンドに設定します。
分配器のアンテナ分配出力端子に接続する受信機はすべて、分配器と同じバンド設定にする必要があります。



WD-7800-JA13-JとWD-7800-JB-Jをカスケード接続することもできます。その場合、アンテナはS-D7802付属アンテナまたは、YW-7520,7560をご使用ください。

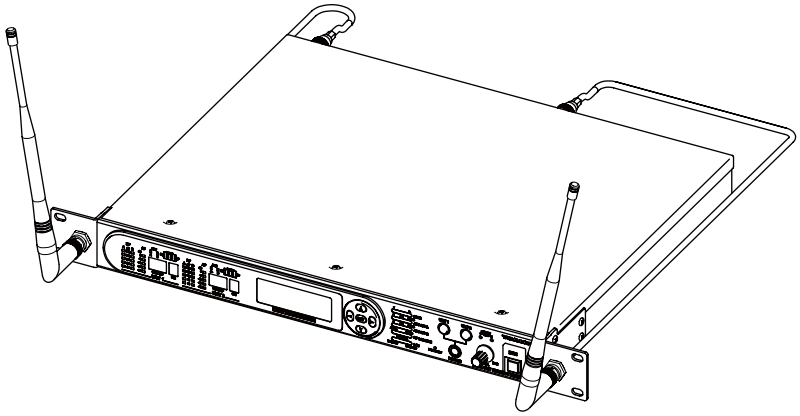
ご注意

アンテナカスケード出力には出力減衰がありますので、接続段数は1段までです。カスケード接続されたWD-7800からさらにアンテナカスケード出力を用いてカスケード接続を行うと、受信感度が低下しますので、ご注意ください。

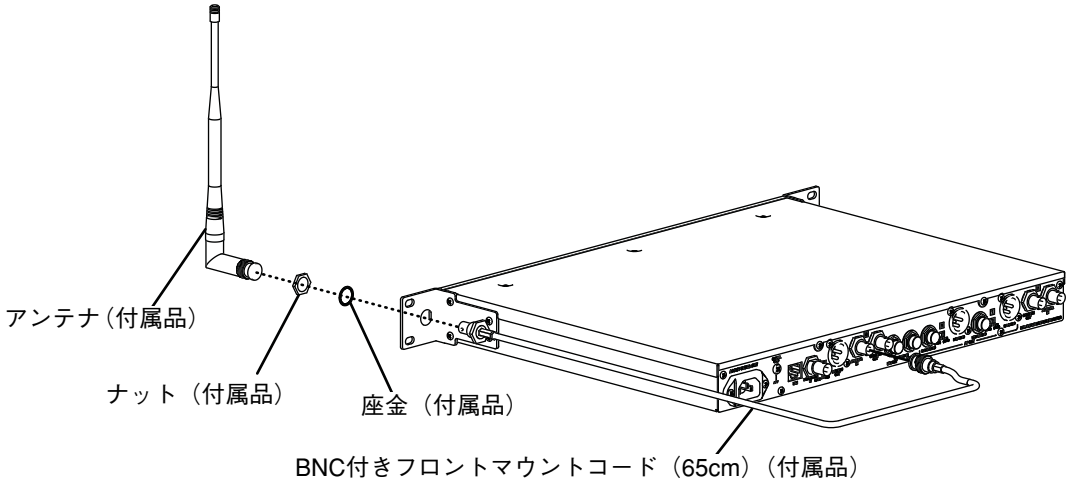
●アンテナの前面取り付けについて

付属のBNCプラグ付きフロントマウントコード(65cm)を使用して、付属アンテナを受信機の前面に取り付けることが可能です。
ラックマウント金具のプラグキャップを取り外し、BNCジャック側をラックマウント金具に通して、付属の座金とナットで固定し、BNCプラグ側は、受信機背面のアンテナ入力端子に接続します。
ラックマウント金具に取り付けられたBNCジャックにアンテナ側のBNCプラグを接続します。

アンテナ前面図



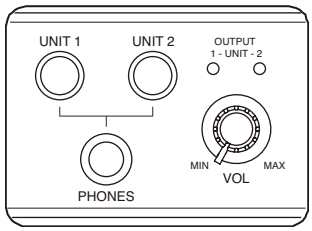
BNCケーブル組立図



図はアンテナB側の取り付けを説明しています。アンテナA側も同様に取り付けてください。

●ヘッドホンモニターの使いかた

ヘッドホン出力のユニット選択ボタンを押すと、選択したユニットの受信音声をヘッドホンでモニターすることができます。両方のボタンを押した状態ではユニット1とユニット2で受信した音声をミキシングしてモニターすることができます。

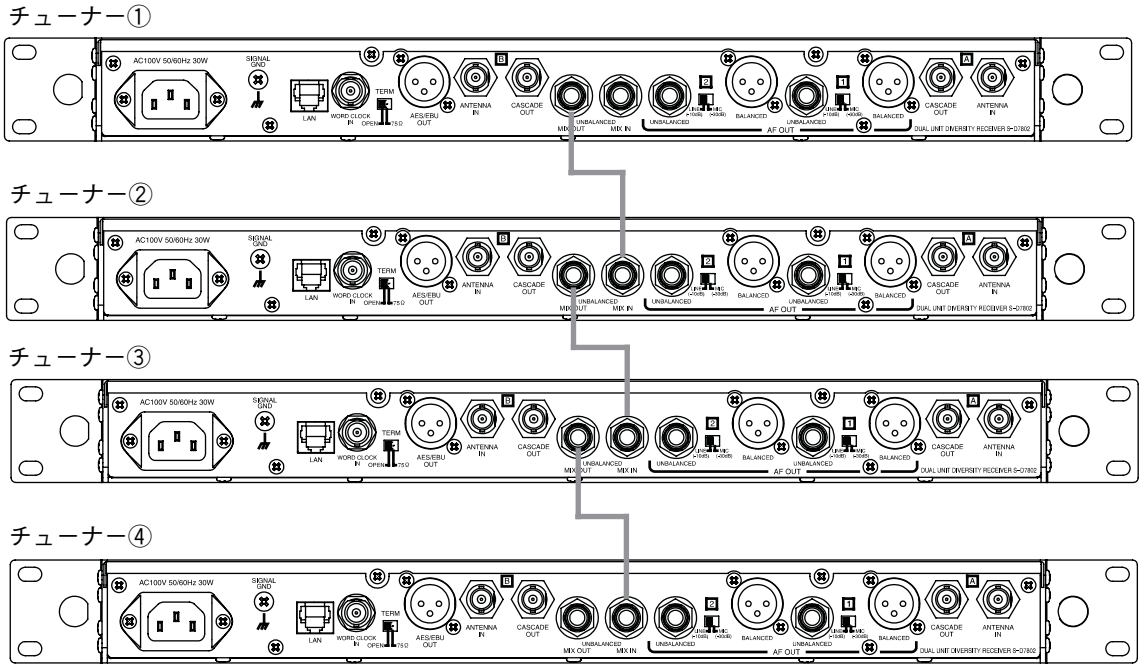


ヘッドホンモニターのカスケード接続

ヘッドホン出力端子は、後面パネルにあるミキシング入出力端子と連動しているため、複数のチューナーでミキシング入出力をカスケード接続すると、最後にミキシング入力端子に接続されたチューナーのヘッドホン端子にヘッドホンを接続した状態で、ミキシング入出力端子のカスケード接続された複数のチューナーの出力音声をモニターすることができます。各チューナーのユニット選択ボタンで選択されたユニットの音声がミキシングされてヘッドホン端子とミキシング出力端子に出力されるので、任意のユニットの出力音声を一箇所のヘッドホン出力端子で聞くことができます。

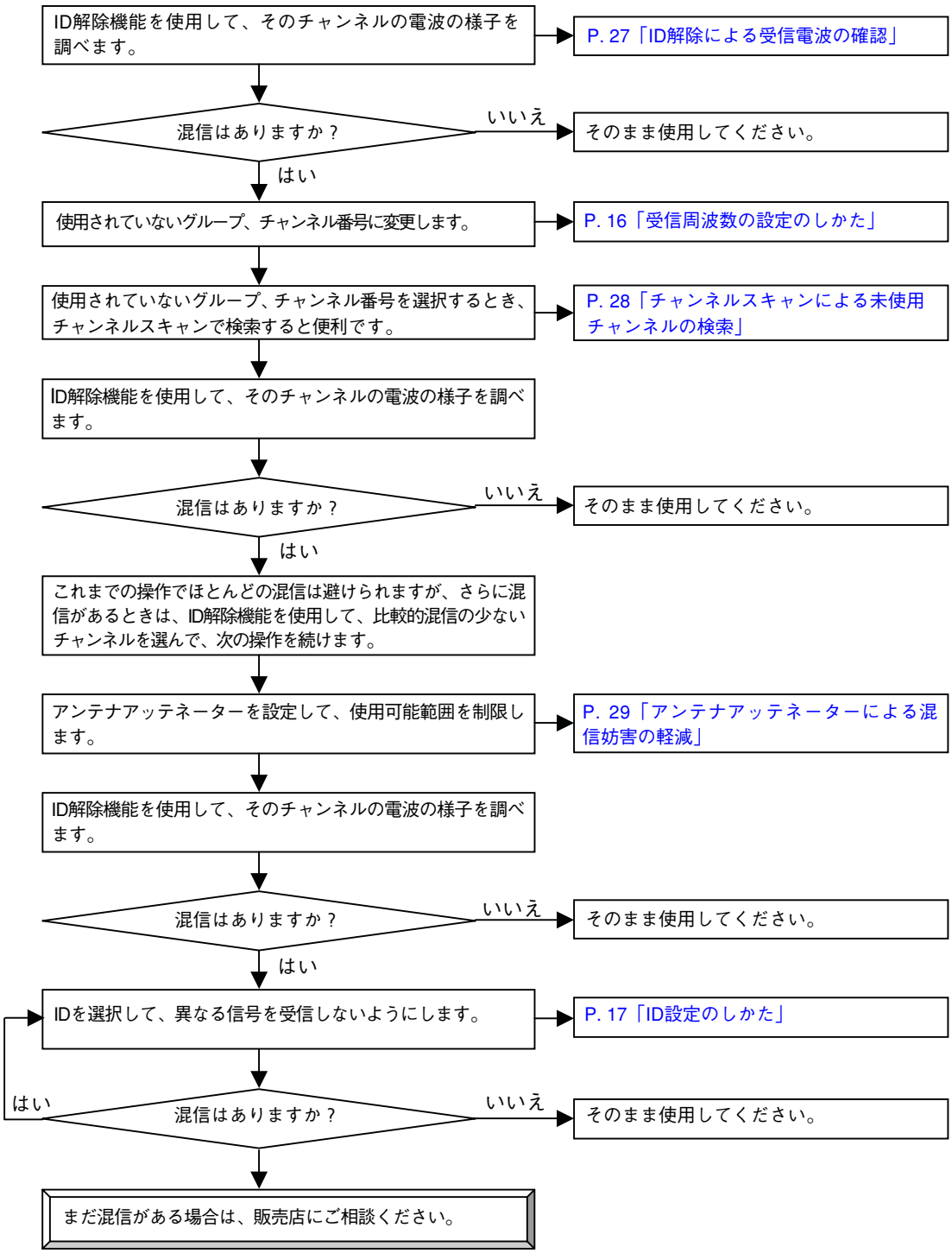
①のチューナーでは①が受信した音声だけを聞くことができ、②では①と②が受信した音声を聞くことができ、③では①と②と③、④では①～④が受信した音声を聞くことができます。

（後面から見た様子）



混信があるときの対処のしかた

●対策の手順



●ID解除による受信電波の確認

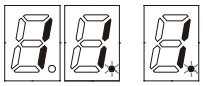
ID解除とは

使用中に混信妨害を受けたときや、新しいグループ・チャンネル番号に設定したときに、その受信周波数の電波の様子を確認するために、ID解除機能があります。

操作のしかた

メニューで、6 UTILITYモードに移り、さらに右ボタンでUTILITY MENUに移行し、上下ボタンで2 CHANNEL IDENTITYに移行します。さらに右ボタンで、設定画面に移り、ID解除したいユニットを左右ボタンで選びます。選択したユニットにおいて、上下ボタンを操作して、OFFを選択し、SETボタンを押し、＊OFFの状態にすると、IDが解除されます。

このとき、受信データによらず、同じ周波数の電波で受信があれば、そのレベルに応じて、電波受信レベルメーターが点灯します。また、グループ表示部、チャンネル表示部の数字表示LEDの「・」が点滅します。



◀			U	1				U	2		C	H	I	D
	[	＊	O	N		]		＊	O	F	F			▲▼

- 隣接からの電波受信の有無を確認するときは、使用中のデジタルワイヤレスマイクは電源をオフにしてからID解除操作をしてください。
- ID解除中は、電波受信レベルメーターがレベルに応じて点灯するのみで、音声は出力されません。ただし、IDを解除していても、受信信号の中に受信機の設定IDと同じIDが検出されれば、デジタル受信処理を行って音声出力します。

●チャンネルスキャンによる未使用チャンネルの検索

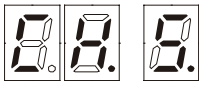
チャンネルスキャンとは

使われていないチャンネルを検索して表示する機能です。この結果を基にしてチャンネル番号を設定すれば、混信を受ける可能性が低くなります。

操作のしかた

メニューで、6 UTILITYモードに移り、さらに右ボタンでUTILITY MENUに移行し、上下ボタンで1 CHANNEL SCANに移行します。さらに右ボタンで、グループ設定画面に移り、チェックしたいグループを上下ボタンで選びます。選択したグループにおいてSETボタンを押して、操作画面に移行し、上下ボタンでONを選択し、SETボタンを押し、＊ONの状態にすると、選択されたグループでのチャンネルスキャンが開始されます。

このとき、グループ表示部、チャンネル表示部は、”CH.S.”を表示します。



チャンネルスキャンが終了すれば、液晶表示部に空きチャンネルが表示されます。電波の受信があり、使用中と判断されたチャンネルは表示されません。

＊結果表示後は、いずれかのボタン、SETボタンを押すことで、グループ設定画面に戻ります。

S	E	L	E	C	T		G	R	O	U	P			
C	H		S	C	A	N		[	G	R	=	0	2	]

◀		C	H		S	C	A	N			G	R	=	0	2
					[	＊	O	N		]					

V	A	C	A	N	T		C	H		G	R	=	0	2	
0	1		3	4	5										

ご注意

チャンネルスキャン中は、すべてのユニットがチェックを行います。アンテナアッテネーターの設定により、結果が異なることがあります。

●アンテナアッテネーターによる混信妨害の軽減

本機はアンテナを2本まで接続できます。
アンテナごとにアンテナアッテネーターを装備し、その感度を前面パネルの操作メニューで簡単に操作できます。
アンテナアッテネーターの各ポジションと通達距離の目安は、下表のとおりです。通常は「0dB」の位置で使用します。「－10dB」または「－20dB」の位置に設定すると、ワイヤレスマイクの使用可能範囲は狭くなりますが妨害電波も受けにくくなりますので、近接使用のときの混信妨害を軽減することができます。
アンテナの系統ごとに設定できますので、特に妨害電波の到来方向がわかっている場合はその方向に近いアンテナアッテネーターを操作してください。

通達距離の目安（アンテナ1本あたり）

ポジション	0dB	－10dB	－20dB
通達距離の目安（%）	100	50	20

ポジションが「0dB」のときの通達距離を100%としています。

操作のしかた

メニューで、4 PERIPHERALモードに移り、さらに右ボタンでPERIPHERAL MENUに移行し、上下ボタンで1 ANTENNA-ATTに移行します。さらに右ボタンで、設定画面に移り、アンテナアッテネーターを操作したいアンテナを左右ボタンで選びます。選択したアンテナにおいて、上下ボタンを操作して、アッテネーターポジション(0,－10,－20dBのいずれか)を選択し、SETボタンを押し、確定（＊）します。

◀		A	N	T	－	A			A	N	T	－	B		
	[	＊	－	2	0	]			＊			0			▲▼

ご注意

アンテナアッテネーター機能はアンテナカスケード出力には対応しません。
ワイヤレスアンテナ分配器WD-7800を組み合わせて使用する場合、WD-7800に搭載されているアンテナアッテネータースイッチの機能を併用すると、ワイヤレスマイクの使用可能範囲がさらに狭くなります。

デジタルオーディオ出力について

●デジタルオーディオ出力のワードクロック設定について

内部クロックによる48kHzサンプリング24ビットフォーマットによる出力が可能です。
さらに、外部のクロック発生器からのワードクロックを入力して、外部ワードクロックに同期した出力も可能です。入力可能なワードクロックの周波数範囲は、32kHz～96kHzです。
ワードクロックの入力インピーダンスは75Ωで、後面のワードクロック入力端子のBNCジャックに同軸ケーブルを接続して入力することができます。

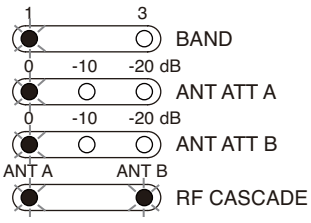
操作のしかた

メニューで、4 PERIPHERALモードに移り、さらに右ボタンでPERIPHERAL MENUに移行し、上下ボタンで2 WORD CLOCKに移行します。さらに右ボタンで設定画面に移り、上下ボタンでINTERNAL(内部)、またはEXTERNAL(外部)を選びます。選択した状態において、SETボタンを押し、確定(＊)の状態にすると、ワードクロックの設定が確定します。

◀			W	O	R	D		C	L	K				
		[	＊	I	N	T	E	R	N	A	L	]		▲▼

ご注意

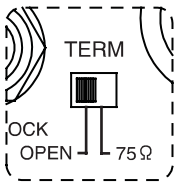
外部クロックの設定の場合でも、外部から適切にワードクロックの入力がない場合には、自動的に内部クロック48kHzに切り換え、エラー警告表示として、バンド表示部とアンテナアッテネーター表示部とRFカスケード表示部が点滅となります。ただしRFカスケード表示部は、アンテナカスケード接続をしていない場合は、消灯したままです。



適切にワードクロックが入力されると、外部ワードクロックモードに切り換え、エラー表示が消えます。
受信動作中にワードクロックの設定を切り換えると、切り換え時に音声出力に大きなノイズを発生する可能性がありますので、ご注意ください。

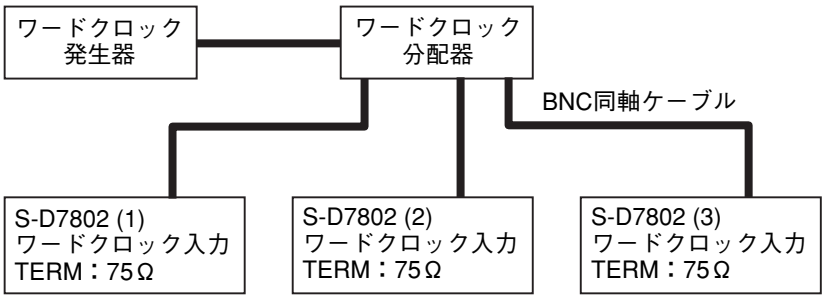
●ワードクロック入力の終端インピーダンス設定について

外部ワードクロックの同軸ケーブル入力において、入力インピーダンスの切り換えが可能です。
後面のターミナル切換スイッチによって、75Ω終端と開放端設定が可能です。

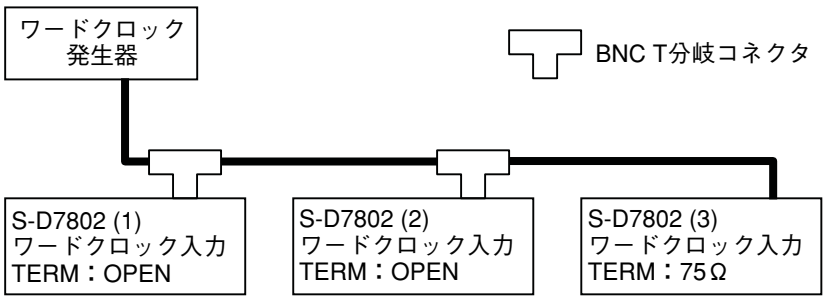


ご注意

- **ワードクロック分配器を使用する場合**
  ワードクロック発生器から出力されるワードクロックは、専用の分配器を介して、チューナーのワードクロック入力端子と1対1で接続するようにしてください。このとき、各チューナーの終端設定は75Ωとします。



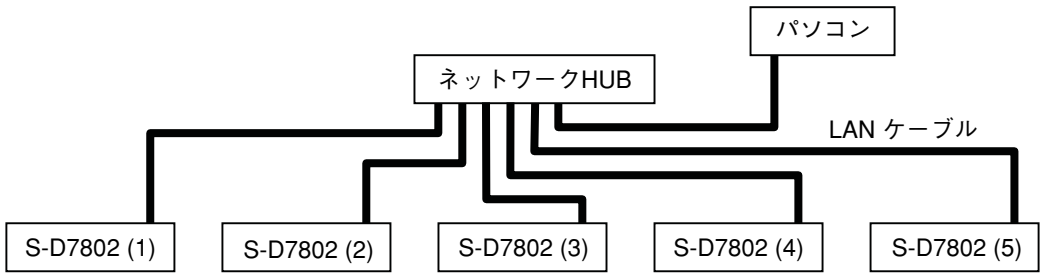
- **デイジーチェーン接続をする場合**
  デイジーチェーン接続の場合には、市販のT分岐型のBNCコネクタを使用して、ワードクロック発生器からの信号を次の機器へ順に分配していきます。この場合、分配途上の段にあるチューナーの終端設定はOPENとし、接続が最後となるチューナーの終端設定のみ75Ωとしてください。この分配接続方法は、システムが大きくなる場合にはお勧めできません。



ネットワーク機能について

●機能概要

TRANTECデジタルワイヤレスチューナーS-D7802は、LANケーブル端子とパソコンとをEthernetケーブルで接続し、専用のシステムモニタリングソフトウェアによって、主に受信システムの状態監視と制御をリアルタイムに行うことができます。
チューナーの前面パネルに表示される情報は、パソコンにも送られ、さらに詳細な情報までもモニター監視することができ、受信電波や受信音量のレベルの変化も確認することができます。
また、チューナーをリモートモードにすることで、パソコンから遠隔で各種設定を行うことができ、受信帯域内を自動スイープさせて、高周波域でのスペクトル表示を行うことで、隣接エリアでの周波数使用状況もリアルタイムに監視することができます。
パソコンとの通信方式は、TCP/IPプロトコルに基づくTOAパケットオーディオ方式を採用し、レベルメーター情報や設定情報以外に、チューナーで再生されるデジタルオーディオ信号をパケットオーディオ信号としてリアルタイムにパソコンに送ることができ、パソコンでモニターしたいユニットの音声を選択し、パソコンのサウンド再生機能を用いて、遠隔で音声モニターを行うことも可能です。接続は、市販のネットワークHUBを用いることで、複数のS-D7802と1台のパソコンをLANで接続することができます。



→ 詳細は付属のCD-ROM内のデジタルワイヤレスシステムS-D7000設定ソフトウェア取扱説明書を参照してください。

●リモート・ローカルモードの設定について

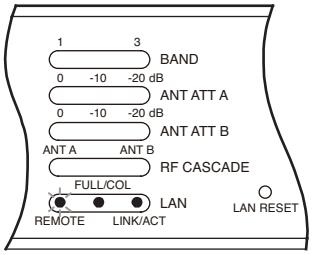
パソコンとの接続においては、チューナーの設定を本体から行うか、パソコンから行うかを設定できます。ローカル（LOCAL）モードでは、チューナー本体からの設定が可能となり、リモート（REMOTE）モードでは、パソコンからの設定が可能になります。
パソコンでの受信状態モニター表示は、リモート・ローカルモードに関係なく、行うことができます。

操作のしかた

メニューで、1 RX CONTROLモードに移り、さらに右ボタンでRX CONTROL MENUに移行し、上下ボタンでREMOTEまたは、LOCALを選択します。選択したモードにおいてSETボタンを押して、確定(＊)の状態にします。
リモートモードでは、チューナー本体のリモート表示灯が点灯します。

◀		S	E	L	E	C	T		R	X		C	T	R	L
			[	＊	L	O	C	A	L		]				▲▼

ご注意



リモートモードでは、チューナー本体の前面パネルを操作して各種設定をすることができません。またローカルモードではパソコンからの設定ができません。
また、リモート表示灯が点滅している場合、ネットワーク機能による、パソコンからの機器確認モードとなっています。詳細は付属のCD-ROM内のデジタルワイヤレスシステムS-D7000設定ソフトウェア取扱説明書を参照ください。

●パケットオーディオ信号の出力ユニット設定について

パケットオーディオ信号は、パソコンのみならず、TOAネットワークオーディオアダプターNX-100およびNX-100SともLANケーブルで接続が可能であり、LANケーブルを介してデジタルオーディオ信号を伝送することも可能です。
この場合、どのユニットのオーディオ信号をネットワークに出力するかを設定することができます。

操作のしかた

メニューで、9 NETWORKモードに移り、さらに右ボタンでNETWORK MENUに移行し、上下ボタンでMONITOR UNITに移行します。さらに右ボタンで、ユニット設定画面に移り、出力したいユニットを上下ボタンで選びます。
選択したユニットにおいてSETボタンを押して、確定(＊)の状態にします。

◀			M	O	N	I	T	O	R		U	N	I	T	
			[	＊	U	N	I	T	2	]					▲▼

パケットオーディオ出力可能なユニットは、ユニット1、2の単独に加えて、ユニット1+2のミックス出力も可能です。

ご注意
あらかじめネットワークの設定とNX-100またはNX-100Sの設定が必要です。
ローカルモードのときは、チューナー本体での設定が可能ですが、リモートモードのときは、パソコンからの設定となります。

●IPアドレスの確認

受信機のIPアドレスが確認できます。

操作のしかた
メニューで、9 NETWORKモードに移り、さらに右ボタンでNETWORK MENUに移行し、上下ボタンでIP ADDRESSに移行すると、受信機のIPアドレスが表示されます。

◀			I	P		A	D	D	R	E	S	S		
1	0	.	1	5	4	.	2	3	.	9	5			

●MACアドレスの確認

受信機のMACアドレスが確認できます。

操作のしかた
メニューで、9 NETWORKモードに移り、さらに右ボタンでNETWORK MENUに移行し、上下ボタンでMAC ADDRESSに移行すると、受信機のMACアドレスが表示されます。

◀			M	A	C		A	D	D	R	E	S	S	
0	0	1	5	−	5	F	9	2	−	A	0	9	5	

●受信機の名前の確認

受信機の名前が確認できます。

操作のしかた
メニューで、9 NETWORKモードに移り、さらに右ボタンでNETWORK MENUに移行し、上下ボタンでRECEIVER NAMEに移行すると、受信機の名前が表示されます。

◀			R	E	C	E	I	V	E	R		N	A	M	E
2	N	D		F	L	O	O	R							

便利な使いかた

●デジタルワイヤレスマイクの送信情報確認について

デジタルワイヤレスマイクシステムS-D7000シリーズでは、ワイヤレスマイクから、マイクの種別(ハンドマイク、ベルトパック)、電池残量情報、電池ケースの開閉情報、マイクゲイン設定情報が、音声情報とともにリアルタイムに送信され、チューナーではその情報を表示することができます。電池残量情報は、電池残量メーターに表示されます。それ以外の情報については、メニュー操作から確認することができます。また、ネットワーク機能によるパソコンとの接続においては、専用のモニタリングソフトウェアによっても情報確認が可能です。

操作のしかた

メニューで、5 TX STATUSモードに移り、さらに右ボタンの操作で表示モードに移行します。ユニット1、および2の情報が表示されます。

電池ケース開閉情報；OPN：ケース開、CLS：ケース閉

マイク種別情報；　HD：ハンドマイク、BT：ベルトパック

ゲイン情報；　デジタルワイヤレスマイクの設定

◀	U	1	:	C	L	S		B	T		−	2	7	d	B
	U	2	:	O	P	N		H	D		−	1	5	d	B

●受信設定情報の保存と呼び出しについて

受信機の設定状態を3パターンまで一括保存し、呼び出しが可能です。

操作のしかた

メニューで、8 STORE SETTINGモードに移り、さらに右ボタンでSETTING MENUに移行し、上下ボタンで保存するときはSAVE SETTING、または呼び出すときはLOAD SETTINGモードを選択します。選択したモードにおいて右ボタンを押して、設定画面に移行し、上下ボタンで、1～3までの保存パターン番号を選択し、SETボタンを押して確定します。

<u>一括保存</u>

S	A	V	E		S	E	T	T	I	N	G				
T	O		S	E	T	[	1	]							▲▼

◀			S	A	V	E		T	O		1	?			
			[		Y	E	S	]							

◀		N	O	W		S	A	V	I	N	G				
S	A	V	E		C	O	M	P	L	E	T	E	!		

一括呼び出し

L	O	A	D		S	E	T	T	I	N	G			
F	R	O	M		S	E	T	[	1	]				

◀			L	O	A	D		F	R	O	M		1	?
			[		Y	E	S	]						

◀		N	O	W		L	O	A	D	I	N	G		
L	O	A	D		C	O	M	P	L	E	T	E	!	

●ユニットの名前設定について

ユニットごとに固有の名称を設定することができます。

操作のしかた

メニューで、7 USER NAMEモードに移り、さらに右ボタンでユニット選択に移行し、上下ボタンでユニットを選択して、右ボタンで入力モードに移行します。左右ボタンで文字カーソルを移動しながら、上下ボタンで文字を入力します。SETボタンを押して、入力が確定します。

◀		<	U	S	E	R	1	>		N	A	M	E	▲▼
V	O	X		M	I	C	1							

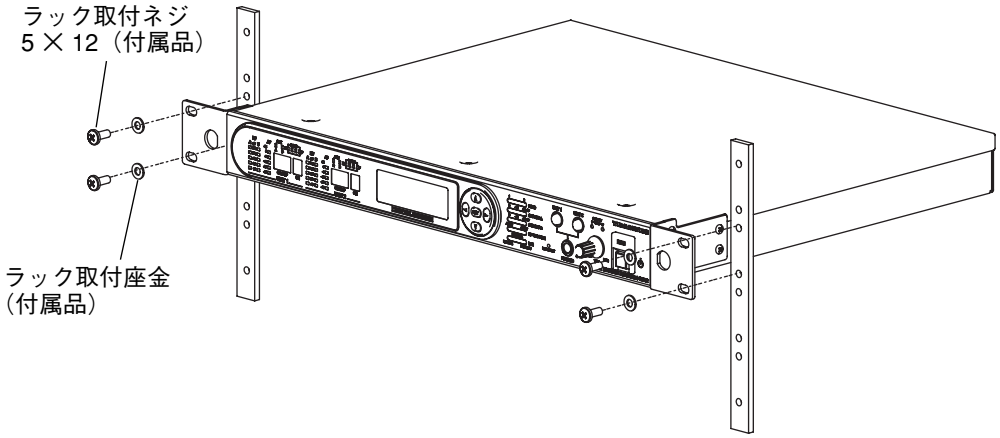
		[	U	S	E	R	1			N	A	M	E	] ▲▼
V	O	X		M	I	C	1							

		[	U	S	E	R	1			N	A	M	E	] ▲▼
V	O	X		M	I	C	2							

◀		<	U	S	E	R	1	>		N	A	M	E	▲▼
V	O	X		M	I	C	2							

ラックへの取り付けかた

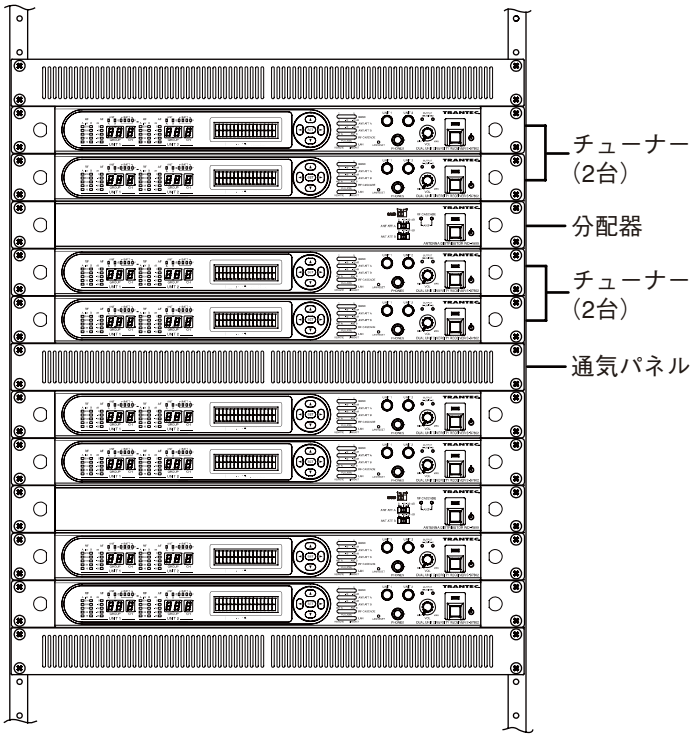
1. 本機底面のゴム足を外す。
2. 付属のねじで、本機をラックに取り付ける。



ご注意

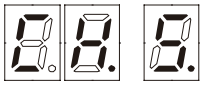
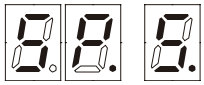
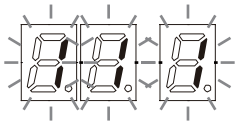
- 付属のラック取付ネジ5×12は、当社のラック専用です。他のラックには使用しないでください。
- 本機を他社のラックやワゴンなどに取り付けた分配器状態で移動させるときは、補強金具などで本機をしっかりと固定してください。移動中の振動や衝撃により本機の前面パネルが変形したり、機器故障の原因となります。
- ラックの内部に熱がこもらないよう換気に配慮してください。
- アンプなど発熱量の大きな機器からは十分に離して設置してください。
- ラックに複数台数のチューナーを組み込む際には、図の要領で、1Uサイズ*以上の通気パネルを取り付けてください。
  - ・ラックの最上段と最下段に取り付ける。
  - ・チューナー4台、分配器1台の計5台ごと上下に取り付ける。

  ＊：1Uサイズ＝44.5mm（基準サイズ）



故障かな？と思ったら

症状	確かめるところ	対処のしかた
電源スイッチを「ON」にしても電源が入らない。	電源プラグがコンセントから抜けていませんか？	電源プラグをコンセントに差し込みます。
受信しない。	ワイヤレスマイクの電源スイッチは「ON」になっていますか？	ワイヤレスマイクの電源を「ON」にします。
	ワイヤレスマイクの電池は消耗していませんか？	ワイヤレスマイクの電池を新しい電池と交換します。
	受信する周波数(バンド・グループ・チャンネル)はワイヤレスマイクと同じですか？	ワイヤレスマイクと同じバンド・グループ・チャンネル番号に設定します。
	受信するIDはワイヤレスマイクと同じですか？	ワイヤレスマイクと同じIDに設定します。
	ワイヤレスマイクが通信エリア外ではありませんか？	ワイヤレスマイクの距離を近づけてください。 アンテナアッテネーターの設定を確認してください。
音が出ない。	ワイヤレスチューナーと後段の機器が正しく接続されていますか？	正しく接続します。
音が小さい。 または歪む。	ワイヤレスチューナーの後面パネルの出力レベル切換スイッチは適正位置にありますか？	出力切換スイッチを適正位置にします。
	後段の機器の入力の音量調節つまみは適正ですか？	後段の機器の入力の音量調節つまみを適正位置にします。
	ワイヤレスマイクの感度は適正ですか？	ワイヤレスマイクのゲイン設定を適正にします。
雑音や異音が出る。	混信がありませんか？	P.26「混信があるときの対処のしかた」を参照してください。
到達距離が短い。	アンテナ・アンテナケーブルが正しく接続されていますか？	アンテナ・アンテナケーブルを正しく接続します。
	アンテナアッテネーターは適正ですか？	P.29「アンテナアッテネーターによる混信妨害の軽減」を参照してください。
	別売の分配器を利用しているとき、分配器の仕様は適切ですか？	適切な仕様の分配器、アンテナをご利用ください。
	別売の分配器を利用しているとき、分配器のバンド設定（A1型／A3型）は適切ですか？	分配器のアンテナ分配出力端子に受信機を接続した場合、受信機と分配器のバンド設定が一致するように設定してください。
メニュー操作で設定できない。	リモートモードに設定されていませんか？	P.33「リモート・ローカルモードの設定について」を参照ください。
アンテナアッテネーター表示部・アンテナカスケード表示部が点滅している。	ワードクロックの設定は正しいですか？	P.30「デジタルオーディオ出力のクロック設定について」を参照してください。

症状	確かめるところ	対処のしかた
グループ・チャンネル表示部が  (CH.S.)と表示し、受信しない。	チャンネルスキャン動作に入っています。	P.28「チャンネルスキャンによる未使用チャンネルの検索」参照してください。
グループ・チャンネル表示部が  (SP.S.)と表示、または  グループ・チャンネル番号が点滅し、受信しない。	ネットワーク機能による、パソコンからの特殊受信モードに設定されています。	付属のCD-ROM内のデジタルワイヤレスシステムS-D7000設定ソフトウェア取扱説明書を参照ください。
グループ・チャンネル表示部・メニュー操作表示部が正しく表示されない。	もう一度電源を入れなおして、表示を確認します。	正しい表示をしないときは、すぐに電源プラグを抜き、販売店にご相談ください。

仕様

電源	AC 100V～240V　50/60Hz
消費電力	30W以下
受信周波数	770.250～778.875MHz（A1型）70波／ 788.000～796.875MHz（A3型）72波（合計142波）
アンテナ入力	1入力　BNCジャック　50Ω　2系統 アンテナ供給電源　DC9V　最大90mA
アンテナカスケード出力	1出力　BNCジャック　50Ω　2系統
受信感度	30dBμV以下（ビットエラーレート1E-6以下）
アンテナ入力アッテネーター	0dB/-10dB/-20dB 3 段階切り換え
局部発信方式	水晶発振制御PLLシンセサイザー方式
受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン、デジタルダイバシティ方式
周波数特性	20Hz～15kHz
D/Aコンバータ仕様	24bit、48kHzサンプリング
符号化方式	ADPCM（TRANTEC オリジナル）
音声遅延時間	4msec（S-D7000シリーズマイクロホンとの組み合わせで使用した場合）
アナログオーディオ 単独出力端子	XLR 3-32 相当：平衡出力 2極フォーンジャック：不平衡出力
アナログオーディオ 単独出力最大出力レベル	平衡：20dB*1以上（ライン）/0dB*1以上（マイク）2段切り換え 不平衡：14dB*1以上（ライン）/-6dB*1以上（マイク）2段切り換え
ダイナミックレンジ	110dB 以上（Aカーブ使用）
全高調波歪率（THD）	0.05%以下（30dBμV入力、1kHz、-10dBFs*2　Aカーブ使用）
ミキシング出力最大出力レベル	10dB*1以上　2極フォーンジャック：不平衡出力
ミキシング入力	-10dB*1　2極フォーンジャック：不平衡入力
ヘッドフォン出力	500mW　16Ω　3極フォーンジャック
AES/EBU出力	24bit出力（内部48kHz、外部ワードクロック同期） XLR 3-32相当：110Ω平衡出力
ワードクロック入力	32kHz～96kHz　BNCジャック：終端75Ω/OPEN切り換え
送信機情報表示	電池残量、マイクゲイン設定情報他
ID設定	10パターン切り換え
ネットワーク	Ethernet、RJ-45
使用温度範囲	-10～+50℃
仕上げ	パネル：アルミ、ヘアライン仕上げ、アルマイト染色、 黒（マンセルN1.0近似色） ケース：表面処理鋼板、黒（マンセルN1.0近似色）塗装
寸法	482（幅）×44（高さ）×362.6（奥行き）mm　1U*3
質量	4.1kg

＊1；0dB=0.775Vrms　　＊2；0dBFs=24bitフルスケール出力　　＊3；1U=44.5mm

※本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

●付属品

電源コード（2 m） 1
BNCプラグ付きコード（50 cm） 1
BNCプラグ付きフロントマウントコード（65 cm） ... 2
直付けアンテナ 2
ホーンプラグ付コード（1 m） 1
CD-ROM（設定ソフトウェア） 1
ラック取付ねじ5×12 4
ラック取付座金 4
ゴム足 4

●別売品

BNCプラグ　　：YA-641
BNC 0.5 m コード 2本入り：YW-P5BB

チャンネル配置表

＊周波数、使用場所など、覚え書きとしてご活用ください。

A1 型（770.250～778.875 MHz）

呼称	周波数（MHz）	機器表示					プラン 0									プラン 1							使用場所	備考
		プラン 0		プラン 1			グループ									グループ								
		グループ	チャンネル	グループ	チャンネル		00	01	02	03	04	05	06	07	08	10	11	12	13	14	15	16		
1-02	770.250	00	0	10	0		0									0								
1-03	770.375	03	0	11	0					0							0							
1-04	770.500	06	0	12	0								0					0						
1-05	770.625	00	1	10	1		1									1								
1-06	770.750	03	1	13	0					1									0					
1-07	770.875	06	1	12	1								1					1						
1-08	771.000	00	2	11	1		2										1							
1-09	771.125	03	2	13	1					2									1					
1-10	771.250	06	2	14	0								2							0				
1-11	771.375	00	3	12	2		3											2						
1-12	771.500	03	3	10	2					3						2								
1-13	771.625	06	3	13	2								3						2					
1-14	771.750	00	4	14	1		4													1				
1-15	771.875	03	4	15	0					4											0			
1-16	772.000	06	4	16	0								4									0		
1-17	772.125	00	5	14	2		5													2				
1-18	772.250	03	5	13	3					5									3					
1-19	772.375	06	5	11	2								5				2							
1-20	772.500	00	6	15	1		6														1			
1-21	772.625	03	6	12	3					6								3						
1-22	772.750	06	6	16	1								6									1		
1-23	772.875	00	7	11	3		7										3							
1-24	773.000	03	7	10	3	チ				7						3								
1-25	773.125	06	7	16	2								7									2		
1-26	773.250	01	0	13	4			0											4					
1-27	773.375	04	0	14	3						0									3				
1-28	773.500	07	0	15	2									0							2			
1-29	773.625	01	1	–	–			1																
1-30	773.750	04	1	10	4	ャ					1					4								
1-31	773.875	07	1	15	3									1							3			
1-32	774.000	01	2	11	4			2									4							
1-33	774.125	04	2	12	4						2							4						
1-34	774.250	07	2	–	–									2										
1-35	774.375	01	3	15	4	ン		3													4			
1-36	774.500	04	3	14	4						3									4				
1-37	774.625	07	3	–	–									3										
1-38	774.750	01	4	10	5			4								5								
1-39	774.875	04	4	16	3						4											3		
1-40	775.000	07	4	11	5	ネ								4			5							
1-41	775.125	01	5	14	5			5												5				
1-42	775.250	04	5	12	5						5							5						
1-43	775.375	07	5	16	4									5								4		
1-44	775.500	01	6	13	5	ル		6											5					
1-45	775.625	04	6	15	5						6										5			
1-46	775.750	07	6	11	6									6			6							
1-47	775.875	01	7	10	6			7								6								
1-48	776.000	04	7	12	6						7							6						
1-49	776.125	07	7	–	–									7										
1-50	776.250	02	0	13	6				0										6					
1-51	776.375	05	0	10	7							0				7								
1-52	776.500	08	0	14	6										0					6				
1-53	776.625	02	1	12	7				1									7						
1-54	776.750	05	1	15	6							1									6			
1-55	776.875	08	1	16	5										1							5		
1-56	777.000	02	2	–	–				2															
1-57	777.125	05	2	–	–							2												
1-58	777.250	08	2	11	7										2		7							
1-59	777.375	02	3	–	–				3															
1-60	777.500	05	3	13	7							3							7					
1-61	777.625	08	3	12	8										3			8						
1-62	777.750	02	4	10	8				4							8								
1-63	777.875	05	4	16	6							4										6		
1-64	778.000	08	4	14	7										4					7				
1-65	778.125	02	5	11	8				5								8							
1-66	778.250	05	5	15	7							5									7			
1-67	778.375	08	5	10	9										5	9								
1-68	778.500	02	6	11	9				6								9							
1-69	778.625	05	6	–	–							6												
1-70	778.750	08	6	14	8										6					8				
1-71	778.875	02	7	13	8				7										8					

A3 型（788.000～796.875 MHz）

呼称	周波数（MHz）	機器表示					プラン 0									プラン 1							使用場所	備考
		プラン 0		プラン 1			グループ									グループ								
		グループ	チャンネル	グループ	チャンネル		00	01	02	03	04	05	06	07	08	10	11	12	13	14	15	16		
3-00	788.000	00	0	10	0		0									0								
3-01	788.125	03	0	11	0					0							0							
3-02	788.250	06	0	12	0								0					0						
3-03	788.375	00	1	10	1		1									1								
3-04	788.500	03	1	13	0					1									0					
3-05	788.625	06	1	12	1								1					1						
3-06	788.750	00	2	11	1		2										1							
3-07	788.875	03	2	13	1					2									1					
3-08	789.000	06	2	14	0								2							0				
3-09	789.125	00	3	12	2		3											2						
3-10	789.250	03	3	10	2					3						2								
3-11	789.375	06	3	13	2								3						2					
3-12	789.500	00	4	14	1		4													1				
3-13	789.625	03	4	15	0					4											0			
3-14	789.750	06	4	16	0								4									0		
3-15	789.875	00	5	14	2		5													2				
3-16	790.000	03	5	13	3					5									3					
3-17	790.125	06	5	11	2								5				2							
3-18	790.250	00	6	15	1		6														1			
3-19	790.375	03	6	12	3					6								3						
3-20	790.500	06	6	16	1								6									1		
3-21	790.625	00	7	11	3		7										3							
3-22	790.750	03	7	10	3	チ				7						3								
3-23	790.875	06	7	16	2								7									2		
3-24	791.000	01	0	13	4			0											4					
3-25	791.125	04	0	14	3						0									3				
3-26	791.250	07	0	15	2									0							2			
3-27	791.375	01	1	–	–	ャ		1																
3-28	791.500	04	1	10	4						1					4								
3-29	791.625	07	1	15	3									1							3			
3-30	791.750	01	2	11	4			2									4							
3-31	791.875	04	2	12	4						2							4						
3-32	792.000	07	2	–	–	ン								2										
3-33	792.125	01	3	15	4			3													4			
3-34	792.250	04	3	14	4						3									4				
3-35	792.375	07	3	–	–									3										
3-36	792.500	01	4	10	5			4								5								
3-37	792.625	04	4	16	3	ネ					4											3		
3-38	792.750	07	4	11	5									4			5							
3-39	792.875	01	5	14	5			5												5				
3-40	793.000	04	5	12	5						5							5						
3-41	793.125	07	5	16	4									5								4		
3-42	793.250	01	6	13	5	ル		6											5					
3-43	793.375	04	6	15	5						6										5			
3-44	793.500	07	6	11	6									6			6							
3-45	793.625	01	7	10	6			7								6								
3-46	793.750	04	7	12	6						7							6						
3-47	793.875	07	7	–	–									7										
3-48	794.000	02	0	13	6				0										6					
3-49	794.125	05	0	10	7							0				7								
3-50	794.250	08	0	14	6										0					6				
3-51	794.375	02	1	12	7				1									7						
3-52	794.500	05	1	15	6							1									6			
3-53	794.625	08	1	16	5										1							5		
3-54	794.750	02	2	–	–				2															
3-55	794.875	05	2	–	–							2												
3-56	795.000	08	2	11	7										2		7							
3-57	795.125	02	3	–	–				3															
3-58	795.250	05	3	13	7							3							7					
3-59	795.375	08	3	12	8										3			8						
3-60	795.500	02	4	10	8				4							8								
3-61	795.625	05	4	16	6							4										6		
3-62	795.750	08	4	14	7										4					7				
3-63	795.875	02	5	11	8				5								8							
3-64	796.000	05	5	15	7							5									7			
3-65	796.125	08	5	10	9										5	9								
3-66	796.250	02	6	11	9				6								9							
3-67	796.375	05	6	–	–							6												
3-68	796.500	08	6	14	8										6					8				
3-69	796.625	02	7	13	8				7										8					
3-70	796.750	05	7	15	8							7									8			
3-71	796.875	08	7	–	–										7									

●周波数表の見かた

- 周波数の呼称はARIB（社団法人電波産業会）の標準規格RCR STD-22で規定されたものです。機器本体には、機器表示の項目にあるグループ、チャンネルの数字が表示されています。呼称は表示されていません。
- グループ00～08を「プラン０」、グループ10～16を「プラン１」と呼びます。
- 「プラン０」は等間隔配置、「プラン１」は受信機内部で発生する3次相互変調を考慮したプランです。
- 「プラン０」を推奨します。
- 「プラン０」の場合、00から08の各グループで最大8波まで使用することができます。さらにグループ00と01と02、03と04と05、または06と07と08のグループは3つのグループを組み合わせて使用することができ、これによりA1型、A3型でそれぞれ最大24波までの同時使用が可能になります。
- 「プラン１」はA1型、A3型でそれぞれ最大10波までの同時使用が可能です。

＊お買い上げ時には、送信周波数はA1型のグループ00、チャンネル0に、IDは0に設定されています。

TOA株式会社

商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、およびカタログのご請求については、取り扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。

TOAお客様相談センター
商品の内容・組み合わせ・取り扱い方法や修理に関するご相談にお応えします。
受付時間 9:00 ～ 17:00（土日、祝日除く）

フリーダイヤル 0120-108-117
ナビダイヤル 0570-064-475（有料）
FAX 0570-017-108（有料）
※ PHS、IP電話からはつながりません。

TOAホームページ　http://www.toa.co.jp/

133-07-291-00